

基本理念

1. 全ての市民のための — 海のみえる図書館 —

一般・児童開架エリアを海のみえる2層に広く開放的に
子どもたちのために、子育て世代をはじめ、全てのおとなたちのためにも

2. 歴史・風土・文化の記憶を踏まえて

- 1) 内海航路の要港として、陸上交通の結節点としての「公」の役割を踏まえ、敷地全体を「訪れる市民にとって、わかりやすく、なじみやすい環境」に整えます。
- 2) 地域再生の拠点として、周辺の公共施設や日常生活の場との間に往来が生まれ、地域全体が活性化するように、街とのつながりを重視します。
- 3) 片上湾や山の連なりになじむ風景をつくります。
- 4) 備前市の歴史・文化を踏まえた建築の表現をめざします。
例えば、「備前焼」の原材料を使用した特注タイルや「耐火煉瓦」の風合いを活かす工法など。

3. 静と動の空間が融合し交流する拠点をめざして

- 1) 全ての世代の市民に愛され、親しまれる図書館
市民のニーズに応じて、静かに学ぶ場所を確保しつつ、アクティブに学ぶ場所を緩やかにつなげ、新たな出会いや、つながり、発見など、知的創造の可能性を広げます。
- 2) ひとりで「学びたい」⇔ みんなと「学びあう」、どちらにも適した空間づくり
いつでも、誰でも、自由に待たずに、無料で使える（予約不要、ふらっとタイプの）公共建築は、公共図書館以外にはないといえます。学校、博物館、美術館、公民館、市役所、病院、警察署…どれも重要な公共建築ですが、先の条件をすべて満足する施設はありません。
こうして集まってくる人々は基本的に個人単位で、目的も滞在時の行動もそれぞれ別ですが、本を探して用が足りたらすぐ帰る、とは限りません。備前市新図書館では、一人ひとりの生涯学習の幅を広げる、きっかけを得られる場として、市の特長である「ものづくり」の意識も最大限発揮できる図書館をめざします。
- 3) 「意図的な学習」に対する「偶発的な学習」 —
図書館を訪れる時には意識のなかったことを結果的に学び、新しい自分発見に充実感を覚えるようになる。そうした生涯学習環境として、図書館は進化させやすく、持続力も潜在的に持っています。
また、市民同士が支えあい、高めあう情景として、例えば、同じ子育て不安に悩む友人と、お店の情報やファッション、身の回りの出来事などを語りストレスを発散する「公園デビュー」ならぬ「図書館デビュー」の若い母親たち、リタイヤした老年男性が同じ興味をもつ友人と図書館で知り合い学びあう姿などが増えています。休日に揃って本を楽しむ親子連れも多く、「家族復権」の場と称されることもあります。そうした訪れることに価値を見い出せる図書館をめざします。

4) 図書館サービス（ソフト）を支える視点でつくる、建築・インテリア（ハード）

その時々目的や状況により「学ぶ」「学びあう」、あるいは日常生活の一部として図書館が欠かせない存在になる意味は大きく、一人でも、何人かの時でも自由に過ごせる場の魅力は、図書館としての第一義的機能が充実していることが、まずは前提となります。よって、図書館サービス（ソフト）を支える視点で、建築・インテリア（ハード）のあるべき姿を実現します。その基本性能が発揮されて初めて利用者同士の触発につながっていきます。そして、今回の備前市新図書館の設計においては、そうした知的交流を巻き起こせる潜在力を副次的ではなく、むしろ現代社会に欠かせない本質的機能として捉えます。

4. 長く市民に活用される建築が存在する意義

1) 代を越えた記憶が重層する、郷土愛につながる場としての図書館

祖父母や親と図書館で過ごした記憶を持つ人々が大人になって、今度は自分の子どもや孫を連れて同じ空間で過ごす…。そのような代を越えた使われ方は、日常的に誰でも繰り返し利用できる図書館ならではの光景です。かつて自分がはしゃいで叱られた空間で、同じように子どもが騒いでいる…。恐らく叱り方も違ってくるのではないのでしょうか。代を越えた記憶が重層する、それが郷土愛につながっていくと考えます。

2) 建築環境に求められる耐久性、ユニバーサルデザインなど

そうした定住環境において図書館が担うべき使命に応えるため、耐久性があり、設備等の更新もしやすい建築をめざします。また、ユニバーサルデザインを徹底し、可能な限り自力で使える環境を実現します。



鳥瞰イメージ

備前市全域マップ（図1）
〈公共施設等の分布〉



片上地域マップ（図2）
〈主要施設の分布〉



施設概要

【敷地概要】

- ・所在地：岡山県備前市西片上 51-4 外 2 筆
- ・敷地面積：4,136.22 m²（片上鉄道跡地除く）
- ・防火指定：指定なし
- ・用途地域：準工業地域
（建ぺい率 60%/容積率 200%）
- ・日影規制：対象外
- ・道路：北東側 国道 250 号（幅員 14.0m）
北西側 国道 250 号（幅員 11.2m）
南東側 港湾道路（幅員 13.5m）
- ・地区計画：なし
- ・地域地区：都市機能誘導区域
景観指定区域

【建築概要】

- ・主要用途：図書館・集会場
- ・計画蔵書数：開架：120,000 冊
（雑誌、新聞、点字・録音資料除く）
閉架：60,000 冊
合計：180,000 冊
- ・階数：地上 4 階 地下 0 階
- ・延床面積：約 3,472.7 m²
- ・最高高さ：17.65m
- ・駐車場：37 台（うち身障者用 1 台）
- ・駐輪場：30 台
- ・耐震安全性の分類：①構造体：Ⅱ類、
②建築非構造部材：A 類
③建築設備：乙類

【構造計画概要】

- ・構造種別：鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造
- ・架構形式：耐震壁付ラーメン構造
（壁ラーメン構造）
- ・計算ルート：鉄筋コンクリート造 ルート 1
- ・耐震性能：Ⅱ類（重要度係数 I=1.25）
- ・基礎形式：杭基礎
- ・垂直積雪荷重：26cm
- ・基準風速：32m/s
- ・地表面粗度区分：Ⅱ（市計画区域内で海まで 500m 以内）

【給排水衛生設備概要】

- ・給水方式：直結給水方式
- ・給湯方式：局所給湯（貯湯式電気温水器）
- ・排水方式：雨水汚水分流方式（汚水、雑排水合流）

【空調設備概要】

- ・空調方式：空冷マルチヒートポンプパッケージ方式

【電気設備概要】

- ・受電方式：単相 3 線 210/105V 50Hz 100KVA
+150KVA を各 1 台
- 三相 3 線 210V 50Hz 500KVA × 1 台

- ・設備容量：750KVA

【防災設備概要】

- ・排煙方式：自然排煙
- ・その他：非常照明、誘導灯、自動火災報知設備非常放送設備

【舞台関連設備】

- 〈ホール〉
- ・客席形式：ロールバックチェア 132 席
スタッキングチェア 170 席
合計 302 席
- ・客席寸法：前後間隔 950mm、幅 500mm
- ・舞台：電動式収納ステージ
- ・舞台機構：吊物バトン、照明バトン
- ・舞台照明：照明操作機器、照明器具、調光制御盤、他
- ・舞台音響：音響操作機器、ワイヤレスマイク

計画概要

1. 新図書館の立地

備前市は岡山県の東南端の兵庫県との県境に位置し、市域の約 80% が山地で構成され、南部の瀬戸内海には大小の島々からなる多島美が形成されています。豊かな自然環境に恵まれた市域において、新図書館の敷地は、人が集まりやすい市民の生活動線上に立地し、将来的に駐車場を確保しやすく、市役所などの公共施設との連携や相乗効果を図りやすく、片上湾に面した海と山の美しい景観を享受できる場所です。

2. 現状の課題について

現図書館は市民センター 3 階で運営しており、奥まった場所で面積も限られていることから、市民の利用率が低く、各種資料が十分に提供できていません。市民の多様なニーズに対応するため、最新の図書館理論に基づく、新図書館の整備が急務となっています。

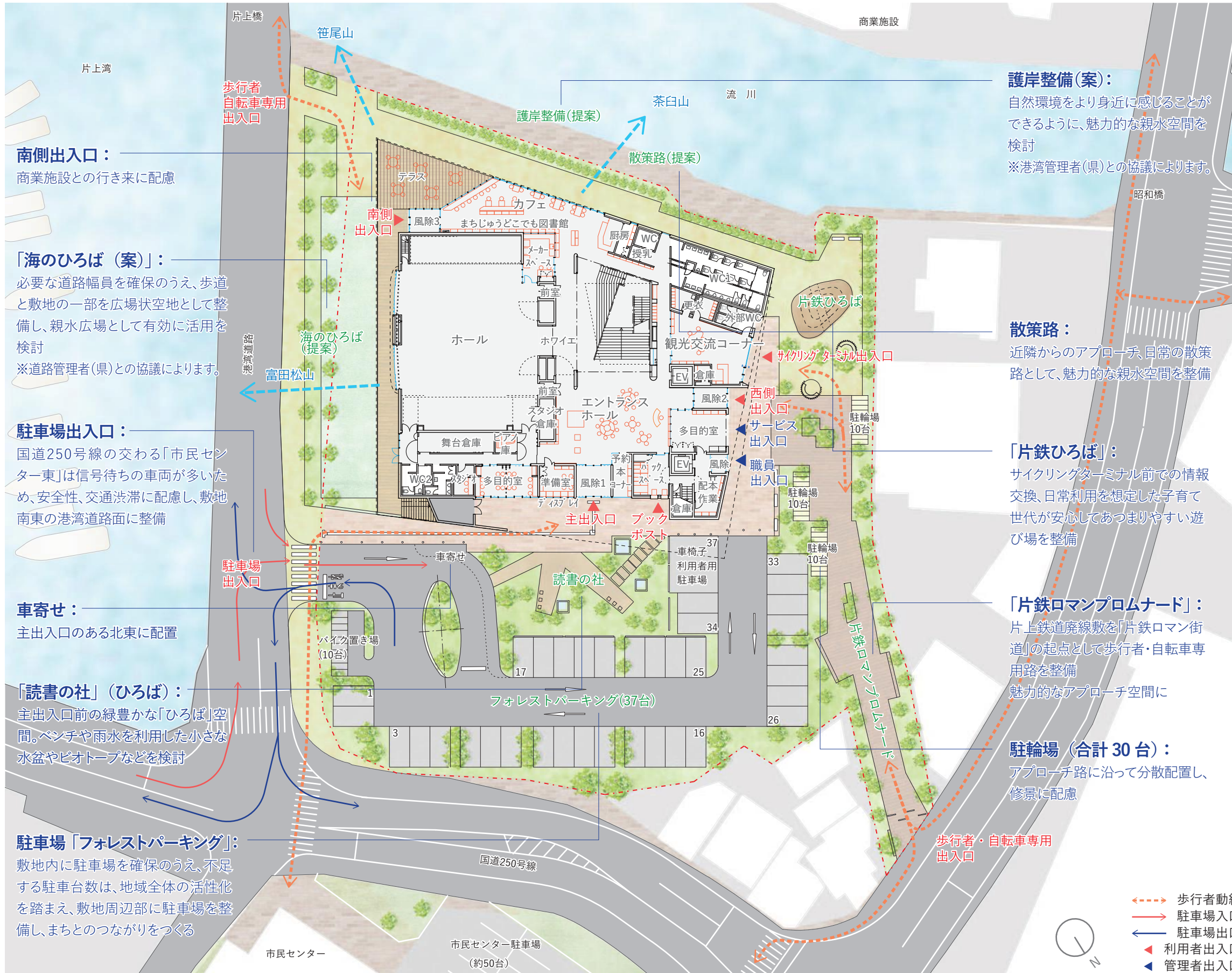
3. 新図書館の役割

市民が主体的に学び、交流・活動する拠点として、多様に使えるサードプレイスとして、「知と創造のターミナル」を実現します。また新図書館は、かつて商業など経済面での中心であった西片上周辺市街地活性化にも寄与する役割を担います。

4. 静と動の空間の緩やかなつながり

新図書館は主に 4 つの機能で構成します。
①図書館機能
②地域交流センター機能
③観光交流機能
④施設運営機能
これら 4 つの機能を連携・融合させることで、単なる図書館を越えて、市民の生涯学習・余暇活動を支援し、あらゆる世代が気軽に集い、交流できる場をつくります。少子高齢化の進行を踏まえ、市の将来を担う子どもたちが心理的バリアを感じることなく、一般図書や様々な知的活動に触れることのできる環境を整備します。

配置・外構計画



南側出入口：
商業施設との行き来に配慮

「海のひろば (案)：
必要な道路幅員を確保のうえ、歩道と敷地の一部を広場状空地として整備し、親水広場として有効に活用を検討
※道路管理者(県)との協議によります。

駐車場出入口：
国道250号線の交わる「市民センター東」は信号待ちの車両が多いため、安全性、交通渋滞に配慮し、敷地南東の港湾道路面に整備

車寄せ：
主出入口のある北東に配置

「読書の社」(ひろば)：
主出入口前の緑豊かな「ひろば」空間。ベンチや雨水を利用した小さな水盆やピオトープなどを検討

駐車場「フォレストパーキング」：
敷地内に駐車場を確保のうえ、不足する駐車台数は、地域全体の活性化を踏まえ、敷地周辺部に駐車場を整備し、まちとのつながりをつくる

護岸整備(案)：
自然環境をより身近に感じることができるよう、魅力的な親水空間を検討
※港湾管理者(県)との協議によります。

散策路：
近隣からのアプローチ、日常の散策路として、魅力的な親水空間を整備

「片鉄ひろば」：
サイクリングターミナル前での情報交換、日常利用を想定した子育て世代が安心してあつまりやすい遊び場を整備

「片鉄ロマンプロムナード」：
片上鉄道廃線敷を「片鉄ロマン街道」の起点として歩行者・自転車専用路を整備
魅力的なアプローチ空間に

駐輪場 (合計 30 台)：
アプローチ路に沿って分散配置し、修景に配慮

- 歩行者動線
 - 駐輪場入口
 - ← 駐輪場出口
 - ▲ 利用者出入口
 - ▲ 管理者出入口
- 配置図 1:500



海のひろば



片鉄ひろば



読書の社



フォレストパーキング



片鉄ロマンプロムナード

平面計画

1. 海のみえる図書館

－ 知と文化のターミナル －

市民のための知と創造、交流を育む図書館

豊かな自然に恵まれ、片上湾、富田松山などの眺望が享受できる環境を活かすために、建築を敷地南端に計画します。その魅力を最大限引き出すために、3層のコンパクトな建築構成とします。

図書館機能(一般・児童開架エリア)、地域交流センター機能、観光交流機能、施設運営機能を3層に渡り配置する際、相互の関係性を重視します。美しい景観がパノラマのように広がる2・3層に図書館機能を、日常の市民活動の拠点として賑わいのある1層に地域交流センター機能と観光交流機能をゾーニングし、静と動の空間の緩やかなつながりをめざします。

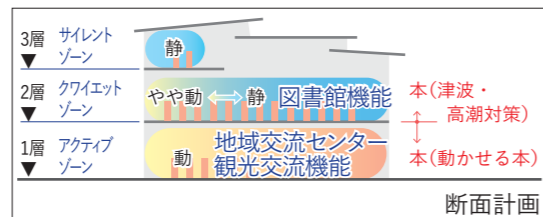
2. 断面構成

①「静と動の空間の緩やかなつながり」

「基本計画」における「アクティブゾーン」と「クワイエット・サイレントゾーン」の階を分ける基本方針を尊重しつつ、静と動の空間の緩やかなつながりをめざします。

②「高潮や津波」などに対する配慮

図書館機能(開架エリア・閉架書庫)、事務室、主要設備機器は、**安全な2層以上**に配置し、災害時の早期復旧を可能にします。



3.<クワイエット・サイレントゾーン>

多世代に配慮した、2・3層 / 図書館機能

えほん、ものがたり、ちしき、青少年、一般へと徐々に静けさを求める利用者の多いコーナーとなる書架配置。知の全体像を把握しやすく、利用特性を踏まえたゾーニングにより、多世代が共存しやすい環境をつくります。

4.<アクティブゾーン>

市民がつながる、1層 / 地域交流センター・観光交流機能

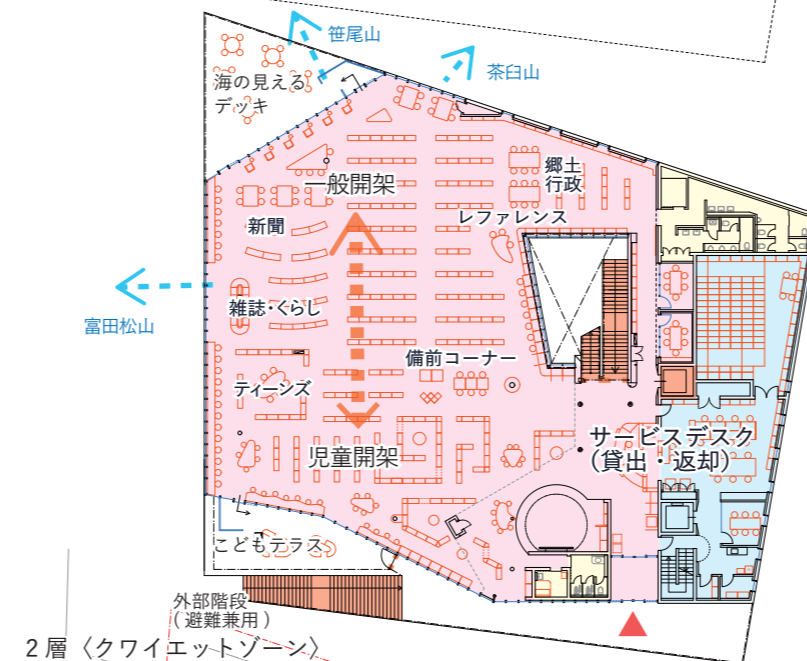
市民の動的な知的活動を支える1層には、ホール諸室、メーカースペース、カフェ、まちじゅうどこでも図書館、サイクリングターミナルなどを配置。活動がみえるだけでなく、活動の成果を発表する掲示板や展示・書架棚を設置します。

ホールは、約300席のホール利用以外に、2室に分割した小ホール+平土間利用など、**市民の様々な活動に対応**できるよう可変性を持たせます。

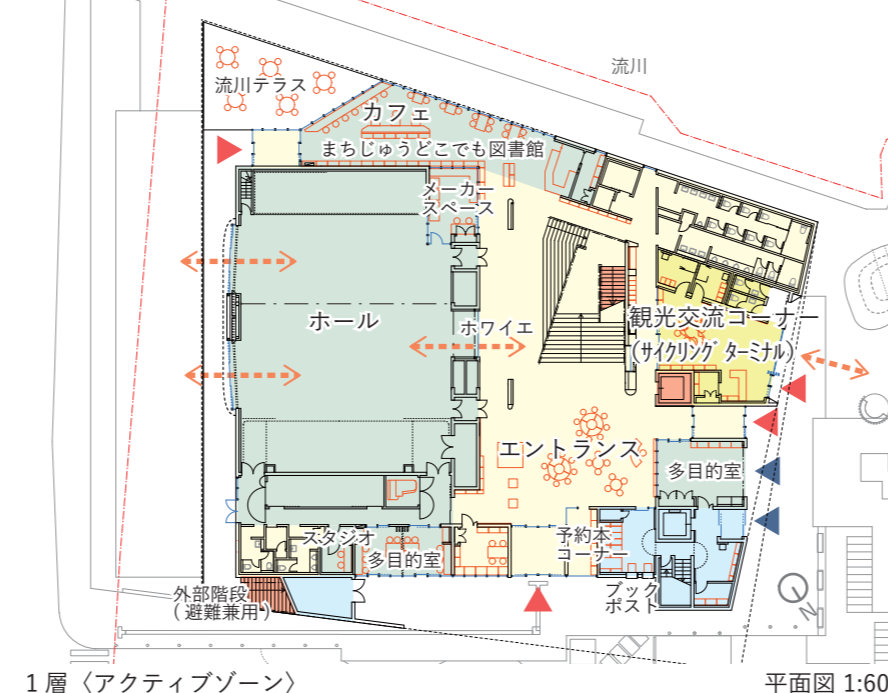
凡例

- 図書館
- 地域交流センター
- 観光交流
- 施設運営
- 共有部・WC
- 利用者階段・エレベーター
- ▲ 利用者出入口
- ▲ 管理者出入口

3層〈サイレントゾーン〉



2層〈クワイエットゾーン〉



1層〈アクティブゾーン〉

平面図 1:600



一般・児童開架イメージ



カフェ・まちじゅうどこでも図書館・メーカースペースイメージ



ホワイエ・階段イメージ

立面計画

1. 内外装デザイン

— 備前らしさを反映した、市民に愛される建築 —

備前市には、豊かな自然や旧閑谷学校、備前焼、耐火煉瓦、北前船寄港地など大切にすべき豊富な歴史資源があります。外装材やエントランスホールを中心に、備前に伝わる特長的な耐火煉瓦や備前焼などの活用を検討し、市民が備前の歴史を身近に感じることのできる、長く愛される建築をめざします。

①せつ器質タイル

備前焼の原料を用い特注タイルを製作。粘土そのものの焼成での発色を活かし、自然灰の表現や緋襷の表現を採り入れるなど、土と炎による温かみを演出します。 ※原料の成分分析により実現の可能性を検討中

②特殊化粧型枠コンクリート打放し保護塗装

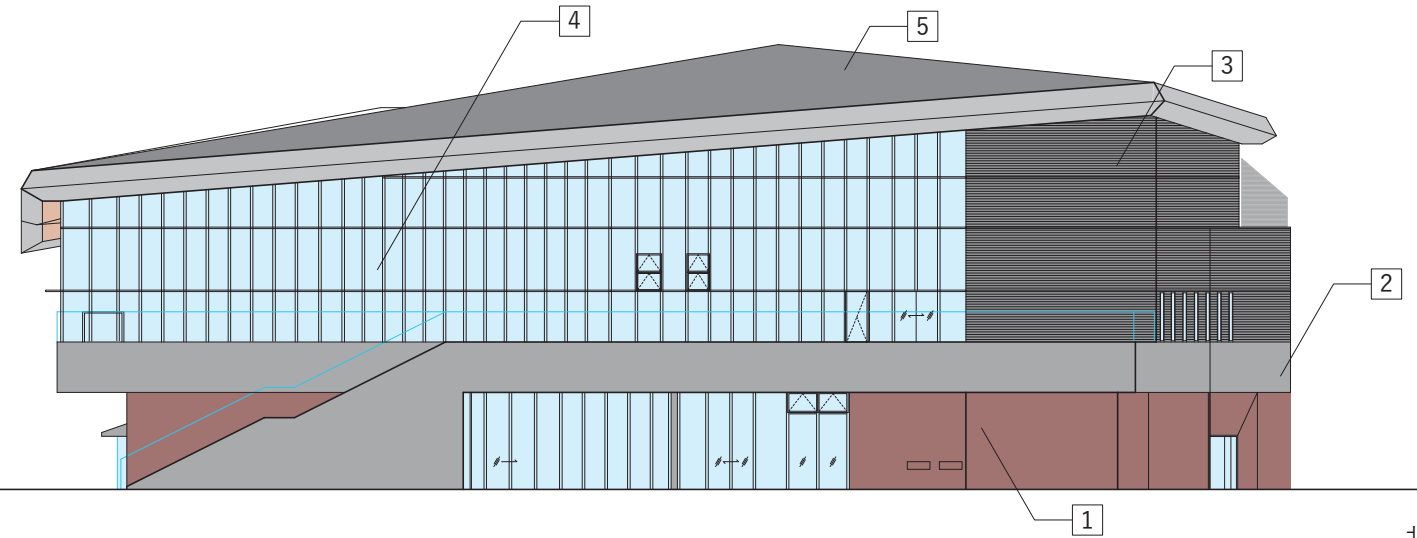
備前焼の微細な凹凸や模様を型枠に用いたコンクリート打放し

③耐火煉瓦

日本の近代化を支えた耐火煉瓦産業のまちとしての記憶を大切に、内装や外構の意匠として象徴的に活用します。

④木材

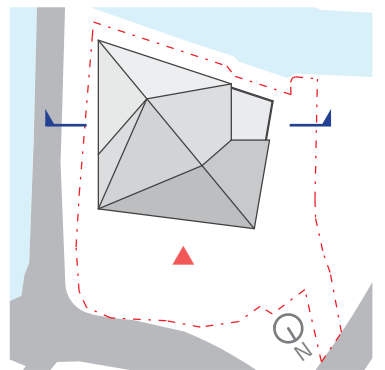
地域産材を、軒天や内装材に採用検討します。



北側立面図 1 : 300

仕上材凡例 (検討中)

- ① せつ器質タイル張り
- ② 特殊化粧型枠コンクリート打放し保護塗装-1
- ③ 特殊化粧型枠コンクリート打放し保護塗装-2
- ④ Low-E 複層ガラス
- ⑤ カラーステンレス文字葺き



ZEB化の検討

「ZEB Ready」を実現します

1. 一次エネルギー消費量50%以上の削減

ZEBを見据えた先進建築物として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築とします。

■ZEB Ready相当基準

再生可能エネルギーを除き、50%以上の一次エネルギー消費量削減

■建築

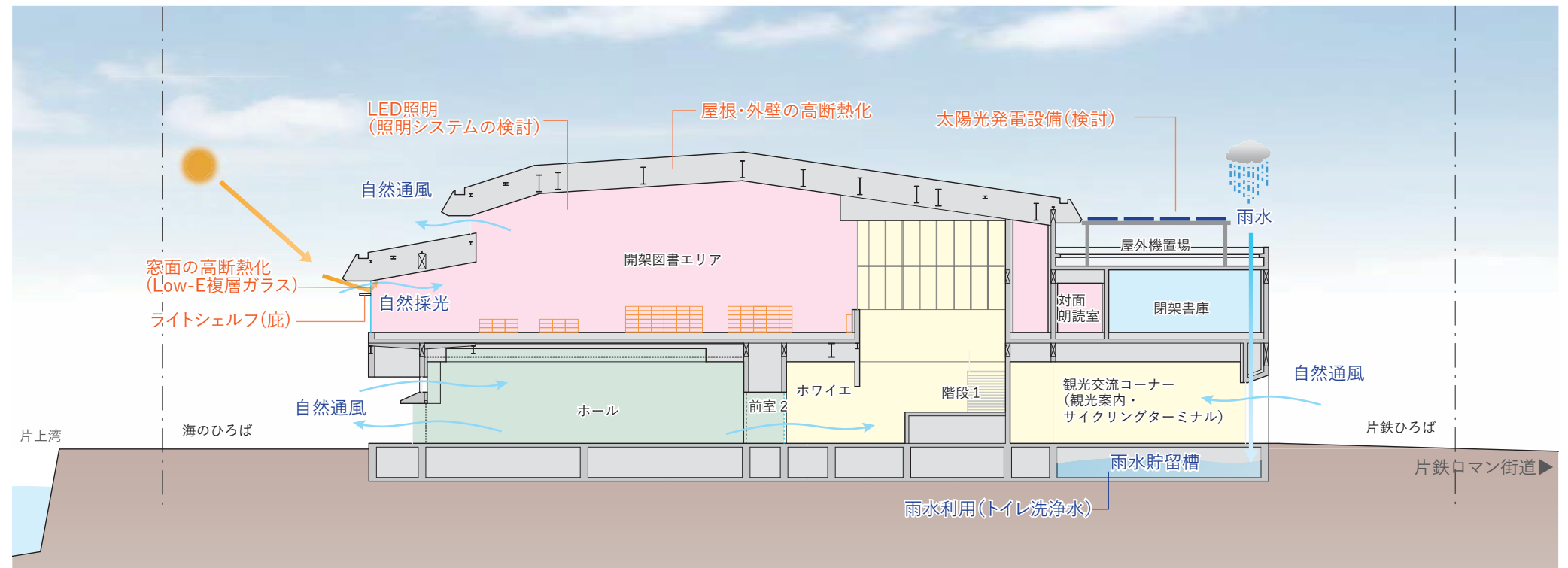
- ①屋根と外壁面の高断熱化
- ②窓面の高断熱化、採光調整機能等

■電気設備

- ①LED器具、調光対応設備の採用等

■機械設備

- ①ZEB用高効率空調機の採用
- ②デシカント換気(湿度コントロール)の採用等



断面イメージ (北西-南東断面。光、風、雨水など自然エネルギーを活用する建築) 1 : 300